

庶民教育資料としての『源氏物語』

絵巻・画帖・色紙などによって絵画を通して享受されてきた『源氏物語』は、近世になって、絵入版本、また『十帖源氏』『おさな源氏』『源氏鬚鏡』『源氏小鏡』などのような絵入梗概書によって、一段と享受層も拡大されてきました。さらに、近世後期になると、遊戯具の双六、教養書・実用書としての往来物や百人一首などの庶民教育資料を通して、『源氏物語』の啓蒙化がより多彩多様になってまいります。

今回の展示では、幾つかの項目に分けて、『源氏物語』の享受の一端を、具体的な資料に即して紹介するように心がけました。展示は、七つのケースやついたてに分けて、I.『源氏物語』の作者紫式部<1～6>、II.源氏物語香図引歌と場面絵・趣意絵<7～15>、III.『源氏物語』の概要<16～18>、IV.『源氏物語』享受の諸相 源氏貝和歌<19>、源氏目録文字鎖<20～23>、源氏八景<24～25>、V.遊戯具 源氏かるた絵合<26>、双六類<28～30>のように配置されています。

東京学芸大学名誉教授 小町谷照彦(監修・解説)

※書名のよみは、原本に記載のないものは『百人一首年表』『往来物解題辞典』に依った。いずれにも掲載されていないものは『日本古典籍総合目録』に依った。

・『百人一首年表』(吉海直人編 青裳堂書店 1997)

・『往来物解題辞典』(小泉吉永編著 大空社 2001)

・『日本古典籍総合目録』(国文学研究資料館 <http://base1.nijl.ac.jp/~tkoten/about.html> [2008/10/27accessed])